

# 瑞穂の家

敷地は名古屋市東部の静かな住宅街で豊かな地域に位置している。家族構成は、夫婦2人+子ども3人、夫の母、将来予定している子ども世帯の3世帯の住宅である。

計画にあたり、家族の皆それぞれに住まい方や植物へ深い造詣がある事から、軒の出があり緑に囲まれながら四季の移ろいを感じ、落ち着いて安らげる住宅が良いと考えた。

接道道路沿いにアカカシ・ハナズキ・ソヨゴ・ハクサンボク・アラカシと地被植物を植え、1階の南西角に植栽パルコニーを設け、道を歩く人に潤いを与えるセミパブリックなゾーンとした。門をくぐり玄関へのスロープを進むと母の庭からキンモクセイ・アカマツ・ツバキなどが、施主世帯の庭からハイノキ・アオダモ・ソヨゴなど約20種の植栽が出迎える。母のリビングからはイロハモミジ・ツバキ・キンモクセイ・モッコク・紅白のウメなど、施主世帯のリビングからはサルスベリ・ハイノキ・ソヨゴ・ナンコウバイなど、それぞれの住空間から季節を感じる庭が見える。3世帯の中心的な配置である仏間から廊下を挟んで見える庭には旧家の記憶を受け継ぐ北山杉を移植した。

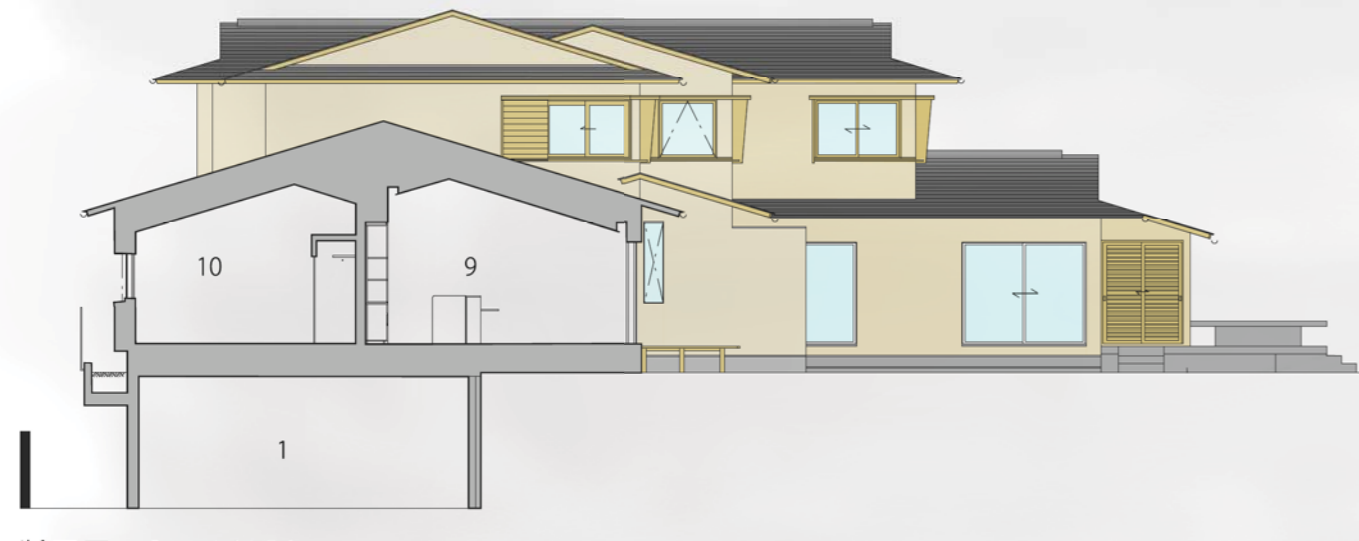
3寸勾配の一字書きの敷居屋根根、外装仕上は名古屋と淡路の土を混ぜたモルタル掻き落としとし、内装仕上は数種類の仕上用いた漆喰塗りとな古屋と京都の土を混ぜた聚楽塗りの他に版築などで空間に落ち着きをもたせた。

母の住まいは、介護されるより自立した生活を楽しみにしている事から、出来るだけ短い動線に配慮したワンルームとし、施主の住まいは未来の子ども夫婦と孫との触れ合いに期待し、多くの家族に囲まれながら生活できるようにした。子ども世帯の住まいは祖母と両親に気を使わないように各自の部屋にアクセスできるなど、それぞれの生活スタイルを大切にしているが、母の住まいと施主の住まいは庭や仏間を挟むように配置し、子世帯は両世帯からアクセスできるようにし、付かず離れずというようにプランした。空間は面積より容積に主眼を置き、豊かさ表現した。

今後、家族が増え皆が健康で賑やかに住まうことを切に望んでいる。



付近見取図 Sc=1/2500



断面図 Sc=1/150

- 1: 駐車場
- 2: 玄関
- 3: B1F 階段ホール
- 4: 納戸
- 5: 玄関2
- 6: ホール
- 7: トイレ
- 8: 客間
- 9: ダイニングキッチン
- 10: 母の部屋
- 11: 広縁
- 12: 洗面脱衣室
- 13: 浴室
- 14: 仏間
- 15: リビング
- 16: ダイニング
- 17: キッチン
- 18: 家事室
- 19: 食品庫
- 20: 洗面所
- 21: 脱衣所
- 22: 主寝室
- 23: 和室
- 24: WICL
- 25: ROOM1
- 26: ROOM2
- 27: ROOM3
- 28: ROOM4
- 29: 2F カフェインガレッジ
- 30: サンプルーム



地階平面図 Sc=1/150

1階平面図 Sc=1/150



2階平面図 Sc=1/150



ファサードのアクセントにもなっている出窓のようなサンプルームからは東側の庭と町の緑を一望できる。

## 母の住まい 70㎡



1: 使いやすさを重視したワンルームのLDK。窓から見えるのは山茶花。  
2: ウッドデッキを通じて庭と室内空間が繋がる。  
3: 寝室。建具高は旧家の高さに合わせて低めにし、落ち着きをもたせた。

## 施主夫婦の住まい 121㎡



4: キッチンからの眺め。サルスベリやナンコウバイなどの庭木が見える。  
5: 大人数でもゆったりと過ごせるリビング・ダイニング。  
6: 漆喰の壁はウェーブ仕上げとし、季節や時間による表情を楽しむ。  
7: リビングボードの背面に版築を施し、インテリアのアクセントとした。

## 子世帯の住まい 131㎡



8: 子世帯のLDKは現代的な白を基調とした空間とした。  
9: サンプルームは壁で覆って半屋外とし、外観に木製建具の風合いを出した。  
10: ROOM3の漆喰壁は重ね塗り。様々なパターンを各部屋に施している。  
11: LDKの一面に塗った横引き仕上げの漆喰壁。

## 3世帯共用部分 117㎡



12: 仏間から東の庭を見る。障子を袖壁に引き込み、庭を望むことができる。  
13: 仏間から西の庭を見る。旧家から移植した北山杉を家の中央に配置した。  
14: 西日が差すと仏間の中央に光が通り、東の庭まで届く。